(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-197868
(P2017-197868A)
(43)公開日　平成29年11月2日(2017.11.2)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A41D 3/04	(2006.01)	A41D	3/04	Z	3B031

審査請求 未請求　請求項の数 2　ＯＬ　（全 10 頁）

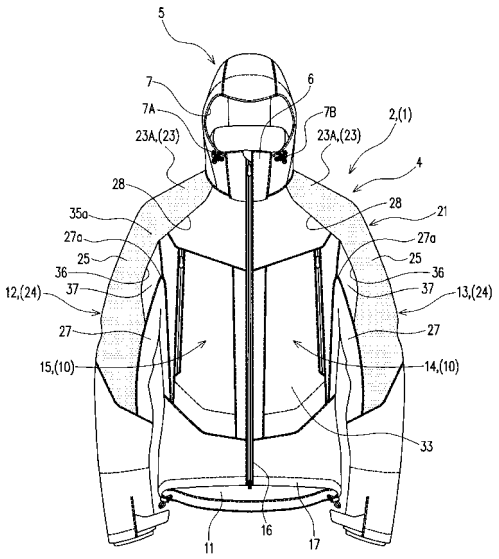
(21)出願番号　特願2016-89186(P2016-89186)
(22)出願日　平成28年4月27日(2016.4.27)

(71)出願人　000002439
株式会社シマノ
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地
(74)代理人　100074332
弁理士　藤本　昇
(74)代理人　100114432
弁理士　中谷　寛昭
(74)代理人　100138416
弁理士　北田　明
(72)発明者　森寺　瞳
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地　株式会社シマノ内
(72)発明者　小山　諒
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地　株式会社シマノ内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】レインウエア

(57)【要約】
【課題】　着用者が極めて動作し易いレインウエアの提供。
【解決手段】　ウエア本体４の一部を、縫目のない一枚の伸縮性生地からなる第一伸縮部２１で構成し、第一伸縮部２１は、後身頃１１のうち肩甲骨に対応する肩甲骨部２６、前身頃および後身頃１１のうち前身頃および後身頃１１に亘る肩部２３、および袖２４のうち着用者Ｈの左右の肘に至る左右の腕部２５を含む領域としたレインウエア。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
前身頃と後身頃と左右の袖とを備えたレインウエアであって、
前記後身頃のうち肩甲骨に対応する肩甲骨部、前記前身頃および後身頃のうち該前身頃および後身頃に亘る肩部、および前記袖のうち着用者の左右の肘に至る左右の腕部を含む領域が、一枚の伸縮性生地からなる伸縮部により構成されたことを特徴とするレインウエア。
【請求項２】
前記肩部における前記前身頃側の下端縁は、着用者の大胸筋鎖骨部下縁、またはその付近に沿うよう構成された請求項１記載のレインウエア。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、磯釣り等の際に着用されるレインウエアに関する。
【背景技術】
【０００２】
下記特許文献１に、この種のレインウエアが提案されている。特許文献１に記載された複数種のレインウエアのうち、図２７ないし図３２に記載のレインウエアは、着用者の胴体を覆う本体部と、腕を覆う袖部とを備えている。これらの記載例のうち、図２７、図２８に記載のレインウエアでは、袖部全体にストレッチ素材が用いられている。図２９、図３０に記載のレインウエアでは、本体部にストレッチ素材が用いられている。図３１、図３２に記載のレインウエアでは、本体部および袖部にストレッチ素材が用いられている。
【０００３】
これらのレインウエアでは、袖部は本体部の袖口に縫着されている。また、レインウエアでは、袖口の縫着部分の裏面には、縫着部分からの水の侵入を抑制するために、止水テープが貼着される。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開平８－３１１７０７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
特許文献１に記載されたレインウエアでは、ストレッチ素材を用いて一部を着用者の動作に追従させることで、着用者の動作のし易さを図っている。しかしながら、これらのレインウエアでは、袖部は本体部の袖口に縫着されており、縫着部分は伸縮しにくい。しかも縫着部分に止水テープが貼着されると、縫着部分はいっそう伸縮性を失うため、その分だけ着用者が動きにくいといった点が指摘される。
【０００６】
そこで本発明は、着用者が極めて動作し易いレインウエアの提供を課題とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本発明は、前身頃と後身頃と左右の袖とを備えたレインウエアであって、前記後身頃のうち肩甲骨に対応する肩甲骨部、前記前身頃および後身頃のうち該前身頃および後身頃に亘る肩部、および前記袖のうち着用者の左右の肘に至る左右の腕部を含む領域が、一枚の伸縮性生地からなる伸縮部により構成されたことを特徴としている。
【０００８】
上記構成を備えた本発明のレインウエアでは、例えば、磯釣りのために着用した場合に、釣人の多様な動作に伴って動作する肩から腕の部分には伸縮部が対応していて、この伸縮部は継目のない一枚の伸縮性生地とされていることで伸縮性に富むから、着用者が極め

て動作し易い。
【０００９】
本発明のレインウエアでは、前記肩部における前記前身頃側の下端縁は、着用者の大胸筋鎖骨部下縁、またはその付近に沿う構成を採用できる。
【００１０】
一般に、大胸筋鎖骨部は、腕を肩と同じ高さかそれ以上の高さに上げて前に出すような動きに伴って盛りあがる。いっぽうで、大胸筋鎖骨部下縁より下の大胸筋はほとんど盛りあがらない。そこで、上記構成のように、伸縮部の肩部における前身頃側の下端縁を、着用者の大胸筋鎖骨部下縁、またはその付近に沿わせて、伸縮部の伸びを、大胸筋鎖骨部の盛りあがりに対応させている。
【発明の効果】
【００１１】
本発明のレインウエアでは、一枚の伸縮性生地とした伸縮部を、後身頃のうち肩甲骨に対応する肩甲骨部、前身頃および後身頃のうち前身頃および後身頃に亘る肩部、および袖のうち着用者の左右の肘に至る左右の腕部を含む領域に備えたことで、着用者が極めて動作し易い。
【図面の簡単な説明】
【００１２】
【図１】本発明の一実施形態のレインウエアの上衣を表した正面図である。
【図２】同着用者の筋肉とレインウエアの伸縮部との位置関係を表した正面図である。
【図３】同背面図である。
【図４】同ズボンの正面図である。
【図５】同背面図である。
【図６】同側面図である。
【図７】同着用状態の一例を表す背面側からの斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１３】
以下、本発明のレインウエアに係る一実施形態を、図１ないし図７を参照しつつ説明する。本発明の実施形態に係るレインウエア１は、上衣２とズボン３を備える。上衣２は、ウエア本体４と、フード５とを備える。
【００１４】
フード５は一般的な構造であるので、概略のみ説明する。図１ないし図３に示すように、フード５は、前開きタイプであり、ドットボタン（符合省略）を介して、ウエア本体４の襟首部６に着脱自在とされている。フード５は、着脱視界を邪魔しないよう開口７を有している。フード５はレインウエア１の着用者Ｈの頭部にアジャストさせるためのアジャスト紐７Ａ、およびストッパ７Ｂを備えている。
【００１５】
ウエア本体４は、前身頃１０と、後身頃１１と、右袖１２と、左袖１３と、とを一体的に備えている。ウエア本体４は伸縮性生地と非伸縮性生地とが所定の部位で切り替えられて構成されている。各切り替え部の裏面には、防水テープ（シームテープ）が貼着されている。伸縮性生地および非伸縮性生地の何れも防水性に優れる。
【００１６】
前身頃１０において、左前身頃１４と右前身頃１５は、スライドファスナ１６によって着脱自在に合わせられる。スライドファスナ１６は、前身頃１０の裾１７から、襟首部６を含む身丈方向全域に亘って設けられている。
【００１７】
伸縮性生地により構成される領域部分は、第一伸縮部２１および第二伸縮部２２である。第一伸縮部２１および第二伸縮部２２は、それぞれ縫目のない一枚の伸縮性生地からなる。
【００１８】

第一伸縮部２１は、前身頃（左前身頃１４と右前身頃１５）、および後身頃１１のうち前身頃１０および後身頃１１に亘る左右の肩部２３、および肩部２３から、袖２４のうち着用者Ｈの左右の肘に至る左右の腕部２５を備えている。さらに具体的には、後身頃１１のうち肩甲骨に対応する肩甲骨部２６、前身頃および後身頃１１のうち前身頃および後身頃１１に亘る肩部２３、および袖２４のうち着用者Ｈの左右の肘に至る左右の腕部２５を含む領域が、一枚の伸縮性生地からなる第一伸縮部２１とされている。この第一伸縮部２１は、縫目（肩線）を有しない。

【００１９】

第一伸縮部２１のうち、肩部２３は、前身頃１０側の前肩部２３Ａと、後身頃１１側の後肩部２３Ｂとを備えている。肩部２３は、襟首部６を除いて設けられており、着用者Ｈの肩全体に対応する部分に配置されている。

【００２０】

腕部２５どうしは左右対称形状であり、それぞれ肩部２３に連続して形成されている。腕部２５は、着用者Ｈの腕のうち、いわゆる二の腕において、その内側を除く外側に対応する領域に配置されるとともに、脇部２７を除いて設けられている。各腕部２５において、肩部２３を基準とした袖丈は、後側に比べて前側が長く形成されている。すなわち、腕部２５において、肩部２３を基準としてその前側は、着用者Ｈの肘を覆う位置まで延長され、後側は着用者Ｈの肘に至らないよう延長されている。

【００２１】

肩部２３の前肩部２３Ａにおいて、その前縁２８（前身頃側の下端縁）は、腕部２５に向けて傾斜している。図２に示すように、前縁２８は、着用者Ｈの大胸筋鎖骨部下縁Ｈ１、またはその付近に沿うよう設けられている。

【００２２】

第一伸縮部２１は、後身頃１１において下方に延長された延長部２９を備える。延長部２９は、後身頃１１において、襟首部６を除いて身丈方向下方および身幅方向へ延長され、肩部２３に連続して形成されている。このような延長部２９は、着用者Ｈの背中全体に対応する程度の面積を備えている。

【００２３】

延長部２９の下縁は、後身頃１１の身幅中心部に配置されて身幅方向に沿うよう配置された身幅方向縁２９ａと、身幅方向縁２９ａの身幅方向両側端から脇部２７へ（上方へ）向けて傾斜する上傾斜縁２９ｂとを備える。

【００２４】

第二伸縮部２２は、後身頃１１において、第一伸縮部２１の下側に連続して設けられている。第二伸縮部２２は、身幅方向中心を基準として左右対称形状に形成されている。第二伸縮部２２は、延長部２９の下縁である身幅方向縁２９ａにおいて切り替えられて、下縁と同幅の上縁３１において第一伸縮部２１に連続している。第二伸縮部２２は上縁３１から身丈方向下方ほど広幅となるよう傾斜した下傾斜縁３２を備える。第二伸縮部２２の下部領域は、後身頃１１において、後身頃１１の身幅と略等しい身幅に形成されている。第二伸縮部２２の下端は、後身頃１１の裾に至っている。

【００２５】

第一伸縮部２１および第二伸縮部２２以外の生地は、非伸縮性生地の非伸縮部により構成されている。襟首部６は非伸縮部である。非伸縮部は、前身頃においては、合わせを含む前部３３を備える。前部３３は、肩部２３に対して身丈方向下方の略全域を占める。さらに具体的には、前部３３は、着用者Ｈの胸から腹に対応する領域である。非伸縮部は、後身頃１１においては、第一伸縮部２１と第二伸縮部２２との間の側部３４を備える。袖２４は、各腕部２５に対する袖先側の略全域に非伸縮部を備える。

【００２６】

脇部２７は非伸縮部である。脇部２７は、前後身頃の側部から、着用者Ｈの脇、二の腕の内側（但し、袖丈方向には腕部２５の端まで延長されている）に対応する領域である。

【００２７】

ウエア本体４の前面において、特に、脇部２７の頂部２７ａ（上端）から肩部２３と腕部２５の境界付近３５ａに亘る切り替え３６が配置され、この切り替え３６を境界として、袖２４には、切り替え３６、脇部２７、前肩部２３Ａにおける前縁２８の腕部２５側への延長線（切り替え）により囲繞される袖付根非伸縮部３７が設けられている。袖付根非伸縮部３７は、前部３３に切り替え３６を介して連続して設けられている。なお、脇部２７には、他の領域の非伸縮性生地とは、色違いの非伸縮性生地が設けられて、デザイン性を向上させている。

【００２８】

図４ないし図６に示すように、ズボン３は、ズボン本体４０、および不図示のズボン吊りを備える。ズボン本体４０は、着用者Ｈの脚が通される一対の筒部４１と、着用者Ｈの腰全体を覆う腰部４２とが一体に形成されている。腰部４２の身幅方向両側には、ポケット４３が設けられている。また、ベルト通し４４を備えた履口４５の背面側に、スライドファスナが設けられており、これに前記ズボン吊りが着脱自在に設けられている。

【００２９】

ズボン本体４０は、耐摩耗性生地と、伸縮性生地と、非伸縮性生地とが所定の部位で切り替えられて構成されている。各切り替え部の裏面には、防水テープ（シームテープ）が貼着されている。何れの生地も防水性に優れる。

【００３０】

ズボン本体４０の筒部４１において、着用者Ｈの膝に対応する領域である膝部４６が耐摩耗性生地により構成されている。筒部４１において、裾寄り内側である裾寄内側部４７が、耐摩耗性生地により構成されている。ズボン本体４０の腰部４２において、臀に対応する臀部４８が、耐摩耗性生地により構成されている。

【００３１】

ズボン本体４０の筒部４１において、着用者Ｈの太股、および太股の裏側に対応する領域である前側太股部４９、後側太股部５０が伸縮性生地により構成されている。また、履口４５においてその一部である背面部５１が、伸縮性生地により構成されている。前側太股部４９と後側太股部５０の丈方向上端位置は略同一である一方、後側太股部５０の下端位置は、前側太股部４９の下端位置に比べて下側まで延長されている。前側太股部４９と後側太股部５０は、筒部４１の身幅方向内方では連続しており、筒部４１の身幅方向外方では、非伸縮性生地によって分断されている。

【００３２】

ズボン本体４０において、膝部４６、裾寄内側部４７、前側太股部４９、後側太股部５０、背面部５１以外の部分は、非伸縮性生地により構成されている。

【００３３】

上記構成のレインウエア１は、例えば磯釣りの際に好適に着用される。磯釣りでは着用者（釣人）Ｈは様々な形態の動作をする。例えば、図７に示すような投げ動作、図示しないが、撒き餌動作、合わせ動作、針掛かりした魚のコントロール動作、魚の取込み動作等、着用者Ｈの動作は様々である。一例を記載すれば、撒き餌や投げ動作では腕を後方へ移動させた後に前方へ振る、合わせ動作では腕を急速に曲げる、魚のコントロールでは上半身を前後に動かす、取込み動作では腕をつき出して前かがみになる等である。

【００３４】

これらの動作に伴い、着用者Ｈの筋肉や骨は動き、身体表面の形状は変化する。そこで、本実施形態では、ウエア本体４の一部が、伸縮性生地からなる第一伸縮部２１、および第二伸縮部２２からなる構成を採用している。すなわち、第一伸縮部２１は、後身頃１１のうち肩甲骨に対応する肩甲骨部２６、前身頃および後身頃１１のうち前身頃および後身頃１１に亘る肩部２３、および袖２４のうち着用者Ｈの左右の肘に至る左右の腕部２５を含む領域を、一枚の伸縮性生地から構成しており、この第一伸縮部２１は、縫目（肩線）を有しない。

【００３５】

また、第二伸縮部２２は、後身頃１１において、第一伸縮部２１の下側に連続して設け

られ、第二伸縮部２２は、延長部２９の下縁位置で切り替えられて、第一伸縮部２１に連続し、上縁３１から身丈方向下方ほど広幅となるよう傾斜した下傾斜縁３２を備え、第二伸縮部２２の下部領域は、後身頃１１において、後身頃１１の身幅と略等しい身幅に形成され、第二伸縮部２２の下端は、後身頃１１の裾に至っている。

【００３６】

第一伸縮部２１、第二伸縮部２２を配置した領域は、着用者Ｈの身体形状の変化が、他の部位に比べて大きい部位に対応している。頻繁に、また激しく前後させる身体部位として腕があるが、腕のうち筋肉の形状変化が大きいのは二の腕であり、この身体部位に相当する領域には、第一伸縮部２１の腕部２５が配置されている。

【００３７】

腕の動作に伴って動作する身体部位として、肩や肩甲骨がある。肩や肩甲骨に対応する領域には、前肩部２３Ａ、後肩部２３Ｂ、肩甲骨部２６が配置されている。また、背の略全面に対応する領域には、延長部２９が配置されている。そして、第一伸縮部２１は縫目を有しない。

【００３８】

このような構成から、第一伸縮部２１におけるこれらの領域は、身体形状の変化に倣いつつ、互いに関わり合って（協働して）伸縮する。このため、着用者Ｈは、レインウエア１を心地よく装着することができるとともに、動き易い。

【００３９】

一般に、身体の大胸筋鎖骨部Ｈ２は、腕を肩と同じ高さかそれ以上の高さに上げて前に出すような動きに伴って盛りあがる。いっぽうで、大胸筋鎖骨部下縁Ｈ１より下の大胸筋Ｈ３はほとんど盛りあがらない。そこで、本実施形態では、第一伸縮部２１の肩部２３における前身頃側の前縁２８（前身頃側の下端縁）を、着用者Ｈの大胸筋鎖骨部下縁Ｈ１、またはその付近に沿わせて、第一伸縮部２１の伸びを、大胸筋鎖骨部Ｈ２の盛りあがりに対応させている。

【００４０】

また、ウエア本体４の前面において、脇部２７の頂部２７ａ（上端）から肩部２３と腕部２５の境界付近３５ａに亘る切り替え３６が配置されている。この切り替え３６は、針掛かりした魚のコントロール動作、魚の取込み動作に伴い腕の前方向へ回動させる際の、中心軸として機能し、切り替え３６に対する背側には、第一伸縮部２１の肩甲骨部２６や腕部２５が配置されている。このため、腕が袖によって覆われていても、着用者Ｈは腕を前方向へ回動させ易い。

【００４１】

着用者Ｈが前かがみになる姿勢では、主として延長部２９や第二伸縮部２２が身体の曲げ方向に応じて伸びる。

【００４２】

ズボン本体４０では、着用者Ｈの膝に対応する領域である膝部４６、筒部４１において、裾寄り内側である裾寄内側部４７、臀に対応する臀部４８が、耐摩耗性生地により構成されている。着用者Ｈの膝に対応する膝部４６、臀に対応する臀部４８は、磯等の環境においては損傷し易いが、これらの領域に耐摩耗性生地を用いることで、損傷を抑えられる。

【００４３】

また、筒部４１において、裾寄り内側である裾寄内側部４７は、靴等が擦れ易い領域であり、このような領域に耐摩耗性生地を用いることで、損傷を抑えられる。また、頻繁に動作される部分に対応する領域には、伸縮性生地を配置して、着用者Ｈの動作に対応させている。

【００４４】

本発明は、上記実施形態に限定されず、本発明の主旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。その他、各部の具体的構成についても上記実施形態に限られるものではない。上記実施形態では、肩部２３の前肩部２３Ａにおいて、その前縁２８は、着用者Ｈの大胸

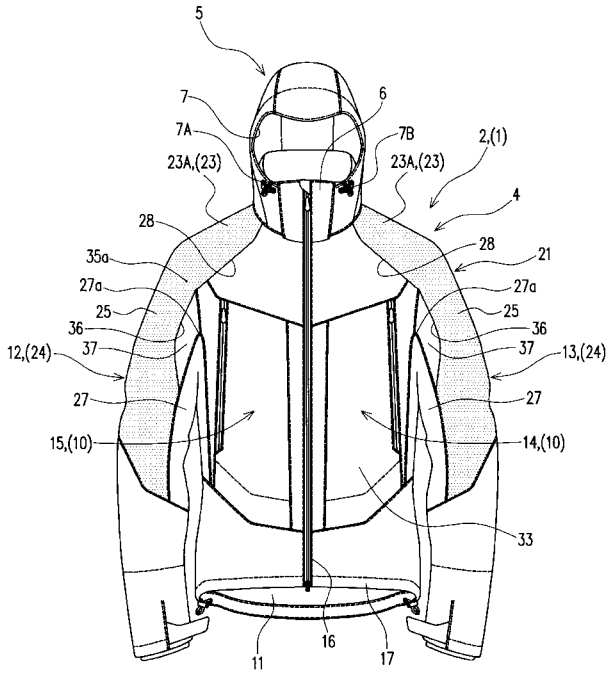
筋鎖骨部下縁Ｈ１、またはその付近に沿うよう設けられた場合を例示した。しかしながら、前縁２８がそれ以上に下方に配置されるよう、前身頃１０において、肩部２３を下方に延長することができる。

【符号の説明】

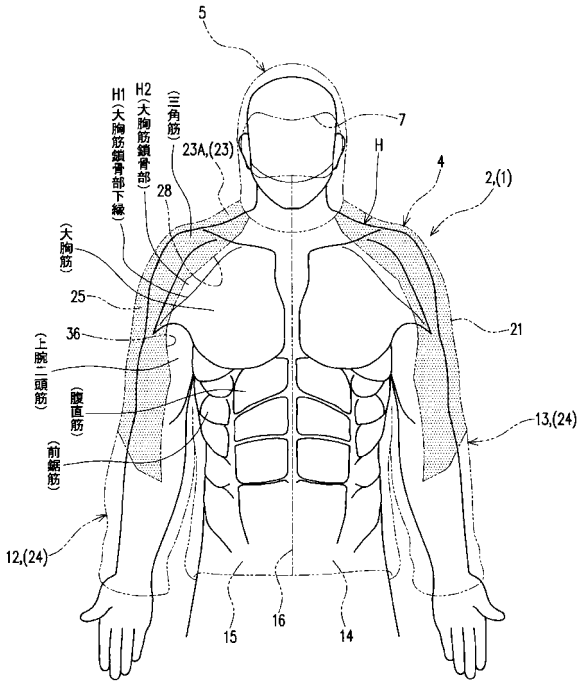
【００４５】

１…レインウエア、２…上衣、３…ズボン、４…ウエア本体、１０…前身頃、１１…後身頃、１２…右袖、１３…左袖、１４…左前身頃、１５…右前身頃、２１…第一伸縮部、２２…第二伸縮部、２３…肩部、２３Ａ…前肩部、２３Ｂ…後肩部、２４…袖、２５…腕部、２６…肩甲骨部、２７…脇部、２７ａ…頂部、２８…前縁、２９…延長部、２９ａ…身幅方向縁、２９ｂ…上傾斜縁、３１…上縁、３２…下傾斜縁、３３…前部、３４…側部、３５ａ…境界付近、３６…切り替え、３７…袖付根非伸縮部、Ｈ…着用者

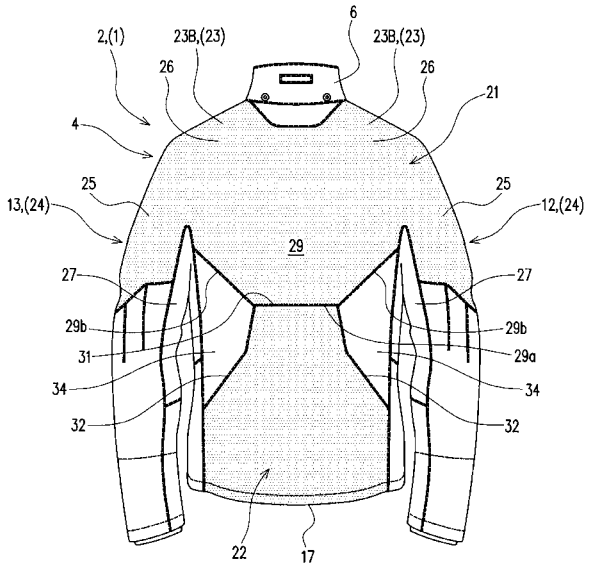
【図１】



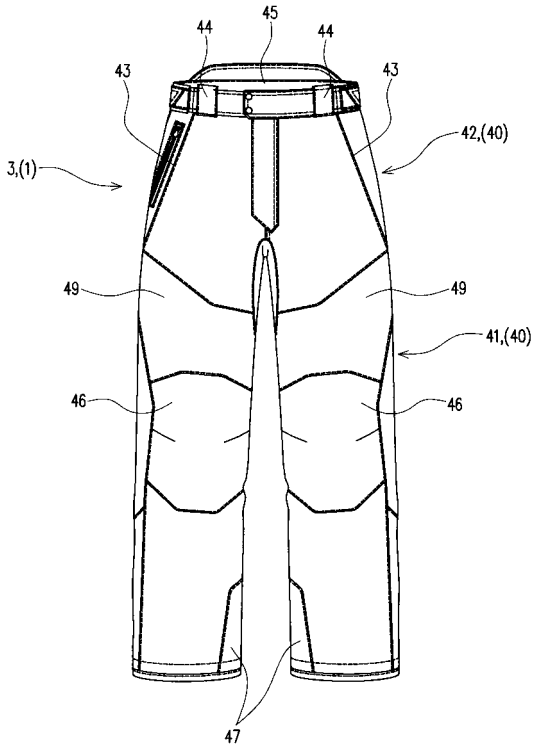
【図２】



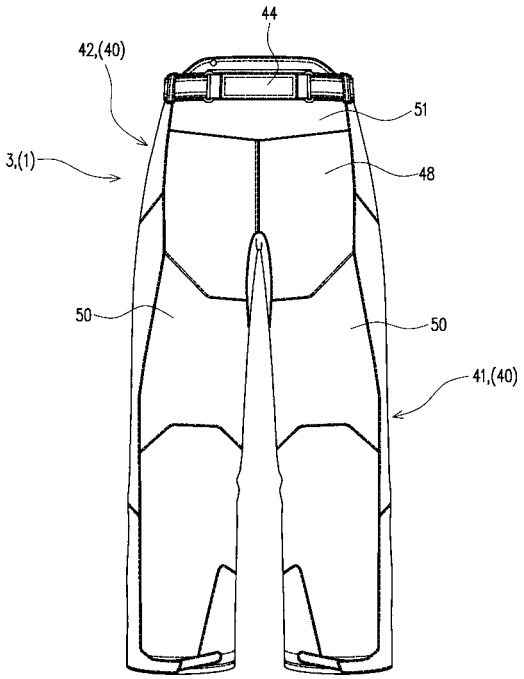
【図３】


2,(1)
23B,(23)
6
23B,(23)
26
26
21
4
25
25
13,(24)
12,(24)
29
27
27
29b
29b
31
29a
34
34
32
32
22
17

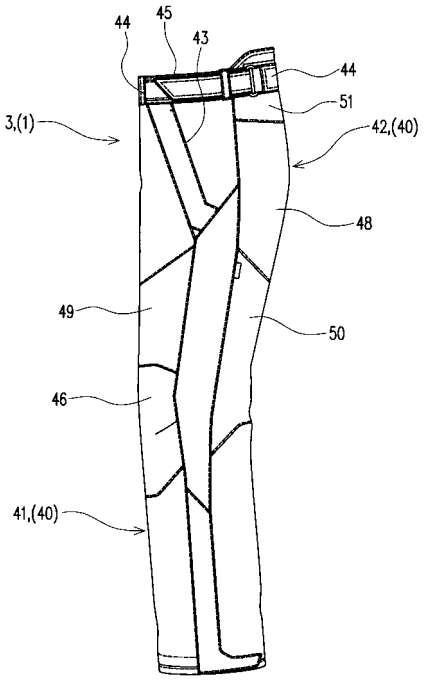
【図４】


44
45
44
43
43
42,(40)
3,(1)
49
49
41,(40)
46
46
47

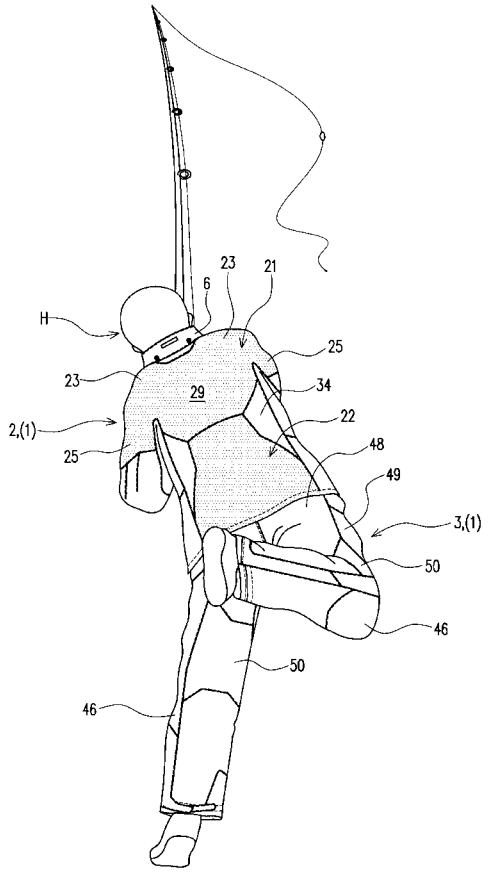
【図５】


44
42,(40)
51
3,(1)
48
50
50
41,(40)

【図６】


44
45
43
44
51
3,(1)
42,(40)
48
49
50
46
41,(40)

【図７】



フロントページの続き

(72)発明者　中島　大輔
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地　　株式会社シマノ内

Ｆターム(参考) 3B031 AA14　AB08　AC12